

# 江北の四季

令和2年  
7月11日  
第15号



ムクゲとサルスベリが咲き出しました。  
木槿は暑さに負けず次々と新しく大きな花を咲かせてくれます。



木槿(ムクゲ)

木槿には清楚な一重咲きや、華やかな八重咲きがあり、花色も赤紫、白、ピンク、青紫など、さまざまな品種があります。真夏にはほとんどの植物が元気がなくなるのに、この木は木全体が花で覆われ素晴らしい景観です。そんなことから、以前は何種類も植えていたのですが、余りにも成長が早く剪定が大変なのでほとんどおこしてしま

ました。現在は二種類を残すのみです。ただ、この木は又木がたくさん取れるので重宝しています。



百日紅(サルスベリ)

サルスベリは別名「百日紅」(ヒヤクジツコウ)の名のとおり、長い間鮮やかな紅色やピンク、白などの花を咲かせてくれます。今咲き出したのは白色のものです。

○第三十一候、小暑、初候、温風至(あつかぜいたる)。二十四節気では夏至の次は小暑・大暑・立秋・処暑・白露と続いています。夏至も過ぎて徐々に日が短くなりますが、暑さが本番を迎えます。もうすぐ梅雨が明けて本格的に夏に向かうころです。北の大气が頑張っているところと集中豪雨ですが、南の大气が勢力を増してくると、熱風至る(あつかぜいたる)ですね。雨もいやですが、暑いのもこらえてほしいものです。七月七日は七夕でしたが、この時期はい

つも雨ですね。本来、七夕は旧暦の七月七日です。今年八月二十五日だそう。この頃であれば秋風も吹きはじめ、天の川もきれいに見えると思いますが、明治五年に太陰太陽暦が廃止され、今日の太陽暦となったようですが、多くの行事がそのまま新暦に移ってしまったようです。せめて季節に関わる行事は旧暦で残してほしかったですね。それでも子供が小さきときは竹を切ってきて玄関先に飾ってました。小さい子供が身近に居ないので分かりませんが、幼稚園などでは今でも七夕飾りをしているのでしょうか。



シマトネリコ

初夏に咲く白い花はやや地味ですが、小さくツヤのある美しい葉と、風になびく軽やかな樹姿が魅力的です。

○雨に閉じ込められ家の中でじっとしていると鬱々としてきます。梅雨のわずかの晴

れ間、気分転換に庭に出ると、蚊が一斉に寄ってくるのには閉口しますが、葉の上にツユムシかウマオイのような昆虫を見つけることがあります。また、アゲハチョウや新しく咲き出した花々を見つければ楽しいものです。特にアゲハチョウは鮮やかな発色をしている羽が美しく、毎回同じ場所で見つけることができます。アゲハチョウは蝶道(ちょうどう)と違って毎日ほぼ同じコースを飛んでいます。



アゲハチョウ



恋です

○第十四号の『江北の四季』で、「ギボウシは和合の外にいける」と書いてしまいましたが、「和合の内にいける」に訂正させていただきます。この時季になると毎年

ようにギボウシの生花をいけ、伝統の「真副の間遠く、副体の間近い形」にして真の葉の近くに花茎を二本差すのですが、自然界では葉の和合の内から二本出るはずはなく、紫苑(しおん)と同様に和合の外と思い込んでいました。しかしながら、第十四号のギボウシの写真を見ると分かる通り出生(しゅっしょう)は明らかに和合の内です。念のため柴田英雄先生著『浮雲』で確認しましたが、やはり和合の内でないといきました。和合の葉の内に花茎が二本出ているように見えますが、一株の後ろにもう一株くっついて見えていると見ればいいのかと思います。



ギボウシ

和合の内に入れました。



『浮雲』より

銀宝珠



和合の外です



オオオオバコ

オオバコ(大葉子 車前)は、以前は道ばたや空き地によく生えていました。子供の頃、花茎をからませて引っぱり合い、草相撲をして遊んだりしました。けっこう力いっぱい引っぱり張りがあってもなかなか切れませんでした。生花にイケたものは、オオオオバコとかオオオオバコと言って、大きい葉は葉長約30cm、葉幅約18cmくらいです。

念のためおさらいをしますと、池坊では美しい葉を持ち特徴のあるものは葉物と呼ばれ、生花にいける場合は長葉物と大葉物に分けて扱われています。そして自然の性状と出生に基づいて特別な生け方が決めら

れています。例えばアガパンサスやカラーは長葉物としての決まったいけ方があり、ギボウシや紫苑は大葉物として「真副の間遠く、副体の間近い形」があります。その形にした上で、出生に応じてギボウシは和合の内に、紫苑や車前(オオバコ)は和合の外にいけることになるのかと思います。



パイナップルリリー



和合の内です

パイナップルリリーも咲き出したのでアガパンサスのようにいけてみました。

萱草の葉は垂れているので生花にはよいいけません。



萱草(カンゾウ)



ネジバナ

○余談ですが、ジャガイモやサツマイモの芽の出方などのややこしい話をしてきましたので、ここで少しだけ調べて分かったことを整理をしておきます。草花を増やすときに種を採ってする場合が多いですが、種類によっては、芋や球根、あるいは株を分けて増やします。一口に芋と言いますが、ジャガイモの芋は茎の肥大化したもので塊茎(かいけい)と呼び、一方サツマイモは根が養分を蓄えて肥大化した芋なので塊根(かいこん)と呼びます。また、ギボウシやススキのように地下茎が芋のように特殊化していないものは根茎(こんけい)と呼ぶそうです。これらは芋がないので株(根茎)を分けて増やすことになるのですね。球根というの芋と同様、見た目の言い方で、地下茎や根が丸くなっているものの総称のようです。球根と言ってもユリの丸いところはタマネギと同じように葉の集まった鱗茎

(りんけい)だそうですね。ますますややこしくなってしまうました。すみません。この話は余談と言うより蛇足でしたね。



ノウゼンカズラ



バレンギク



バレンギク

